

JVMA通信

■ No.23 (平成29年1月号) ■

(発行元)

Japan Valve Manufacturers' Association

一般社団法人日本バルブ工業会

TEL: 03-3434-1811 FAX: 03-3436-4335

E-mail: info@j-valve.or.jp

URL: <http://www.j-valve.or.jp>



■新年賀詞交歓会開催報告

■新年賀詞交歓会の開催

開催日時: 平成29年1月13日(金) 12:30~14:00
 開催場所: 東京・八芳園 1階 ニュイ
 出席者数: 149名 (来賓: 41名、会員: 108名)

◆式次第◆

会長挨拶: 中村 善典 会長
 来賓代表挨拶: 蘆田 和也 氏
 (経済産業省 製造産業局 素形材産業室 室長)
 乾杯: 村井 米男 副会長・彦根支部長
 中め: 中村 政弘 副会長・近畿支部長



挨拶される中村会長(上段)と蘆田室長(下段)



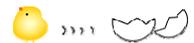
去る1月13日(金)、東京・八芳園において、当会「新年賀詞交歓会」が開催された。

会の冒頭、中村会長からは、第4次産業革命といわれるAIやIoTなどの活用により、大きく社会が変化していくなか、企業間さらには各業界とのネットワークは重要となり、今後ますます工業会の役割に期待されるところが大きくなるとの挨拶があった。

来賓を代表して蘆田素形材産業室長よりは、素形材産業室が中心となって発足した「稼ぐ力」研究会での先進事例の紹介や、ものづくりを支える各種支援策の活用促進、関係業界との連携等を通じて、素形材産業の皆様を応援していくとの挨拶があった。



各支部での「新年賀詞交歓会」の開催状況は、次のとおり。



■東海支部 新年祝賀会

期 日: 平成29年1月26日(木)
 場 所: 岐阜グランドホテル
 出席者: 12名



← 挨拶される
 落合副会長・
 東海支部長

■彦根支部 新年会

期 日: 平成29年1月20日(金)
 場 所: 伊勢幾
 出席者: 25名

※滋賀バルブ協同組合との共催



← 挨拶される
 滋賀バルブ協同組合
 中川理事長

■近畿支部 新年互礼会

期 日: 平成29年1月20日(金)
 場 所: 大阪新阪急ホテル
 出席者: 51名



← 来賓代表挨拶
 近畿経済産業局
 坂本製造産業課長

■ 年頭のご挨拶

■ 年頭所感 ■

一般社団法人日本バルブ工業会 会長 中村 善典



平成 29 年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。
工業会会員の皆様方には、平素から多大なるご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、変化の激しいと言った表現よりも、一寸先は判らないと言っても過言ではなかったと思っております。英国のEU離脱から始まり、米国の予想し得なかった大統領選挙結果と、これから先の世界の平和と経済について不安を感じさせる激動の1年でした。

一方、日本経済はと言えば、安倍政権の経済対策「3本の矢」も、実感として経済環境が改善され好転したとは感じていないと言ったところが、大方の意見ではないでしょうか。2015年10月に発足した第3次安倍晋三改造内閣の目玉プラン、安部首相自身が次の3年間を「アベノミクスの第2ステージ」と位置付け、「一億総活躍社会」を目指すと言いました。少子高齢化の抑止、国民の誰もが活躍できる社会を目指すとしており、首相の実行力が試されるところであります。

そのような中、経済産業省素形材産業室が中心となり、「素形材産業を含めた製造基盤技術の『稼ぐ力』研究会」が発足し、当工業会も参加する機会を得ました。第1回の研究会で蘆田素形材産業室長は「各社、自分達にあった戦略で工夫していると実感する一方、業界としては明るい話題ばかりではなく、取り巻く市場環境の厳しさの中で、様々な課題を抱えながらがんばっている。厳しい事業環境とともに、第四次産業革命の動きなど、これまでの想定と違う社会変化が起こりそうである。従来からの課題に加え、新たな課題も追加されている中で、新たな挑戦をするにも足下で稼ぐことも大事という認識もあり、新しい取り組みには1社単独では難しく、研究会では新たな取り組みのヒントを集め、今後見えてくる方向性を複数抽出し、検討するための材料集めの場になれば。」と述べられました。

正に当工業会の実態を表現されているかと思うものでした。確かに時代の変化は感じていますが、新たな挑戦をするには何から取り組めばいいのかと、掴みきれていないと言ったところが、各企業の実感ではないでしょうか。そしてこれからの時代、一社単独ではなく、企業間のネットワークが重要とも言われております。正に、新たなバルブ工業会としての役割がハッキリとしてきました。

当工業会は平成25年4月、それまでの社団法人から一般社団法人に移行しましたが、28年度中に「公益目的支出実施計画」の完了をもって、一般社団法人への移行が完了するわけであります。事業計画の達成は、工業会にとっての最重要課題として取り組んできました。28年度は数ヶ月を残していますが、確実に完了出来るよう進捗しており、当工業会は本年、一般社団法人日本バルブ工業会として、名実共に最初の一步を踏み出す事になります。

新たな工業会の在り方を検討するため、運営委員会を復活させまして、1年間をかけて多くの皆様方と検討をし、組織の在り方、支部の役割、各種委員会等々を含めて検討の結果、新たな工業会へと改革致します。

私たちは、時代の変化に立ち向かい新しい挑戦に取り組まねばなりません。日本バルブ工業会が中心となり、業界一丸となって邁進すべく、本年も取り組んで参ります。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

最後に皆様のますますのご繁栄とご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



■□■ 年頭所感 ■□■

経済産業省 製造産業局 素形材産業室 室長 蘆田 和也



平成29年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

我が国経済は、この4年間で名目GDPは44兆円増加し、国の税収も15兆円増えました。雇用は110万人近く拡大し、企業収益は過去最高水準を記録すると共に、3年連続高水準の賃上げを達成しました。

しかしながら、将来をみますと、我が国は、少子高齢化に伴う働き手不足、期待成長率の低さによる国内投資の伸び悩み等、困難な構造問題にも直面しております。

我が国のものづくりの基盤である素形材産業としても、国内需要がまだら模様の中で一進一退の状況が続いております中、上記の構造問題に限らず、エネルギーコストの高止まりや取引構造上の課題等、引き続き取り巻く事業環境は厳しいものと認識しております。

このため、まずは、アベノミクスで得た成長の果実を全国津々浦々に届け、持続的な成長軌道に乗せていくためにも、中小企業の取引条件を改善するとともに、サプライチェーン全体での付加価値向上に向けた取組が重要と考えております。昨年末、経済産業省では、下請法の運用基準の改正等を行い、下請取引の適正化に徹底的に取り組みました。また、素形材業界を含め、これらの取組を先導する業界の方々には、自主行動計画の策定とその積極的な実施をしていただけることになりました。本年も、素形材産業取引ガイドラインの改定や、多くの皆様にご活用頂くための周知活動をはじめ、関係業界の皆様と連携させて頂きながら、こうした取組を引き続き進めていきます。

次に、素形材産業の各企業が有する、世界トップクラスの技術力、生産管理力を活かし、これからの激しい変化や高まる不透明感の中にあっても、「稼ぐ力」を発揮しつづけられるよう、具体的な取組を着実に進めて頂くことが益々重要です。

関連して、経済産業省では、先述の構造問題等に対応すべく、イノベーションを喚起し、企業の生産性向上を促し、競争力の強化を図る一つの鍵として、第四次産業革命があると考えております。第四次産業革命においては、IoTやAI等の技術が各分野におけるビジネスモデルと結びつき、全く新たなニーズの充足を可能にするとされており、ものづくり産業においても、生産性向上、新たなビジネスモデルによる付加価値の創出などに結びつけていくことが期待されています。

このため、素形材産業室としましては、業界関係者、大学をはじめとする各界と連携させて頂きながら、「稼ぐ力」研究会の開催を通じた先進事例の共有、海外ミッションの実施、各種支援策の活用促進をはじめとして、素形材産業の皆様による挑戦を応援してまいります。

また、4年目を迎えることとなる次世代型産業用の積層造形技術(3Dプリンタ)の研究開発プロジェクトにおいても、できる限り我が国素形材産業の競争力向上に活用して頂けるよう、成果を追求してまいります。

末筆ながら、本年の皆様のご健康と御多幸を、そして我が国素形材産業の着実な発展を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。





会員ひろば ~ エッセイ No. 4 ~

■バルブと私 (その1)

(株)清水合金製作所 橋岡 由男 常務取締役 技術本部長

バルブとの出会い

バルブの世界に足を踏み入れることになったのは株田淵製作所の採用面接で阿部和行さんにお会いしたことに始まる。大学時代、山とスキーに遊び呆けて理学部を1年留年した私は未曾有の大就職難に遭遇していた。学生課の新卒募集の掲示板を頼りに“開発”という言葉に惹かれて何の会社かもわからずに大和川を渡って大阪の南端にある田淵製作所を訪問した。大学5年秋のことである。その時の衝撃は今でも忘れられない、目の前に阿部和行さんが現れたのである。高校から大学にかけて暇さえあれば六甲山や道場で山仲間とロッククライミングを楽しんでいたがその時のパイプが「新岩登り技術」という本でその著者が阿部さんだった。鹿島槍北壁直登尾根積雪期初登攀など戦後の日本山岳会(JAC)史上大きな足跡を残され、私にとっては別世界の存在であった。阿部さんについては語りきれないのでよろしければ下記のURLにあるJAC関西支部報 No. 157を見ていただければ幸いです。 www.jackansai.com/soumu/shibuhou/kansai-shibuhou-157.pdf



←【左】
阿部和行さんの著書
人形を使った説明など阿部さんの人柄がにじみ出る登山技術解説書
←【右】
在りし日の阿部さん



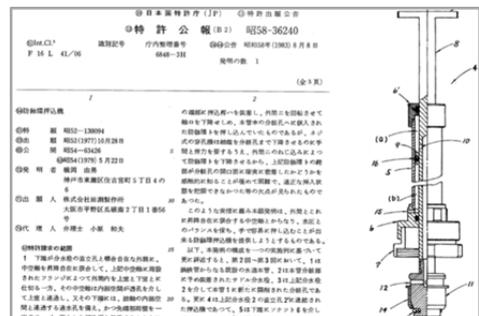
厳冬期後立山連峰 彼方に鹿島槍ヶ岳の北壁を望む

この中にある田淵邦彦氏は当時田淵製作所の商品開発と技術を支えてこられた方で専務をされており、通産局に務めていた阿部さんを招請した方である。確か私の入社年に阿部さんはランタンヒマールへ入山してしまい3ヶ月くらい会社にいなかった時期があった。新規鍛造設備導入時であり、流石にこの時は穏やかな専務も「阿部君はどこへ行った！」とやるせなく研究課にいた私に八つ当たりしてきたのを思い出す。このお二人には初めてのドイツ視察など、ことさらに目をかけて頂き今も感謝に絶えない。

さて、そんな出会いで何を作る会社かもわからず入社試験もなく「来るかね？」と言われて昭和51年入社したのがバルブとの長い付き合いの始まりであった。バルブと言っても水栓といわれる分野の給水装置で流体は水道水。サドル分水栓や止水栓、給水栓とそれらを接続する管継手類が対象であった。サドル分水栓や止水栓はすでに開発されていたが、まだまだ水道の拡張期にあった。自社開発サドル分水栓の大きなクレームをようやく乗り越えた時期で商品開発に意欲的な企業風土の中でいろんな新製品の開発をさせていただいた。アルキメデスの原理を応用した鑄鉄管穿孔穴の防食コア挿入機、セラミックディスク混合栓、形状記憶合金素子サーモスタット混合栓、混合栓内蔵小形水撃防止器、不断水サドル分水栓交換機、架橋PE管用挿入確認継手など要素技術開発を含む開発であった。この頃に学習したことは、ユーザーの課題を解決することの大切さ、一つ上流の市場変化に対応することの大切さであり、小さな成功体験の積み重ねの大切さである。これらの体験は若ければ若いほど良い。



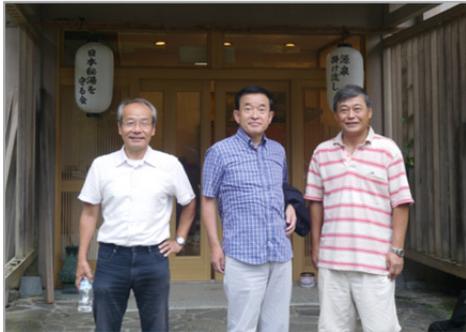
五竜遠見尾根を滑る昔の私



初めての特許、初めての開発品
不断水メタルスリーブ挿入器

■ 会員ひろば

さて、当工業会との関わりは JWVA B 108 水道用止水栓の規格改正 WG のメンバーに参画させていただいたことが最初であったと記憶する。本来であれば阿部さんが真価を発揮する領域であったが、当時給水システム協会の技術委員長をされ給水装置に於ける逆流防止装置の普及を目指し DIN1988 の翻訳等多忙であったためか私に担当させていただいた。当時事務局長であった比企さん(現専務理事)、日邦バルブの大貫栄氏(東京都水道局から日本水道協会規格課長)らと出会い、JVVA 規格専門委員会では東京都水道局の御園良彦氏(当時給水装置課長)ら得難い人々と出会い、自然科学的視点と違った面から技術を見ることを教わり、企業とは別の技術の世界があることを知った。

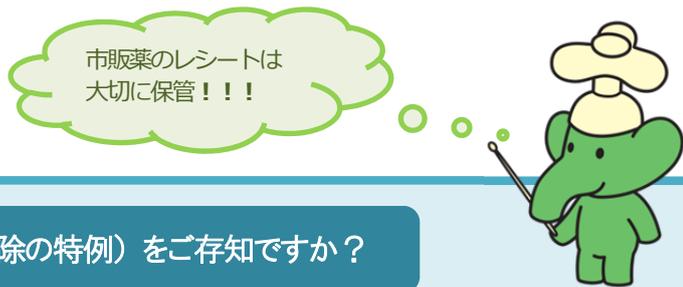


←【左】
故御園良彦氏(中央)、清水合金製作所社長
和田正憲氏(右)と
2012年の夏、水の神様・東吉野村の丹生川上
神社へ参拝した翌朝
【右】→
多くの人に助けられて30年ぶり改訂の JIS B
0100 バルブ用語



その後阪神大震災(平成7年)の年、(株)キッツに転職、水栓とは違うバルブを知ることとなる。阿部さんの本も含めて実家に置いてあったものすべてがこの震災で瓦礫の下に消え、新しいバルブ人生が始まった。

会社が変わってもJVMAに関わる仕事は続けさせて頂き、鉛フリー材料の表示基準や JISB2011 青銅弁、JISB0100 バルブ用語など比企専務理事や多くの方々にお世話になりながら纏められたことがいい思い出になっている。



セルフメディケーション税制(医療費控除の特例)をご存知ですか?

特定成分を含んだOTC医薬品を年間に12,000円以上購入した場合、その超過分が所得税や住民税の控除対象となる「セルフメディケーション税制」が平成29年1月からスタートした。(控除の上限金額は88,000円)

これは、自身で健康管理(セルフケア)に心がけることを推進している制度で、そのため、健康診断を受診していることなども控除の条件に含まれている。

対象商品は、医療用からスイッチされた82成分を含む医薬品で、右のマークが目印。
(例: かぜ薬、胃腸薬、鎮痛薬など...但し、含まれる成分によっては、同じ種類の薬でも対象になるものとならないものがあるので、注意が必要)

ドラッグストアなどで対象となる医薬品を購入の際は、レシートの保管を忘れずに!

■厚生労働省ホームページ

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000124853.html>



↑ このマークが目印



■工業会活動報告（平成28年11月～平成29年1月）

バルブ部会

◎工業用分科会

○電力弁G会議

28-12-15(木) 於:機械振興会館

出席者:9名

主要審議事項:

- (1) 関係市況動向について
- (2) 見学会開催について

○鑄鍛鋼弁G/ステンレス・ボール弁G合同会議

28-11-18(金) 於:大阪鐵鋼會館

出席者:6名

主要審議事項:

- (1) 関係市況動向について
- (2) その他

◎建築用分科会

28-11-24(木) 於:大阪鐵鋼會館

出席者:14名

主要審議事項:

- (1) 関係市況動向について
- (2) その他

◎船用分科会（関西船用工業会共催）

28-12-2(金) 於:ホテルメルパルク大阪

出席者:14名

主要審議事項:

- (1) 造船市場の動向について
- (2) 近畿地区の造船船用工業の動向について
- (3) 船舶用バルブ及びこし器の標準化について
- (4) その他

自動弁部会

◎見学会

28-11-04(金)

見学先:北海道ガス(株) 函館みなと工場

参加者:9名

◎部会

28-11-03(木) 於:函館国際ホテル

出席者:9名

主要審議事項

- (1) バルブ輸出貿易管理令改正について
- (2) 来年度からのJVMA 組織変更及び予算配分について
- (3) 自動弁部会事業活動案の検討
- (4) 各種報告

水栓部会

◎給水栓標準化小委員会

28-11-30(水) 於:東京/TOTO(株) 汐留ビルディング

出席者:13名

28-12-22(木) 於:東京/TOTO(株) 汐留ビルディング

出席者:14名

主要審議事項:

- (1) 省エネ基準関連情報の共有について
- (2) 浄水器関連JISの開発動向について
- (3) 長期使用住宅部材に関するテーマ策定について
- (4) JIS B 2061(給水栓)の改正について
- (5) 住宅ストック循環支援事業について
- (6) 節湯水栓基準の動向について

◎保証小委員会

28-11-16(水) 於:東京/TOTO(株) 汐留ビルディング

出席者:6名

29-01-24(火) 於:東京/TOTO(株) 汐留ビルディング

出席者:7名

主要審議事項:

- (1) 水栓の保証に関する冊子作成について
- (2) 「水栓金具の安全確保のための表示に関するガイドライン」改正について
- (3) 次年度以降の活動計画について

◎技術小委員会

28-12-02(金) 於:東京/TOTO(株) 汐留ビルディング

出席者:14名

29-01-16(月) 於:機械振興会館

出席者:16名

主要審議事項:

- (1) 国内外の物質規制動向について
- (2) ニッケルの水質基準化への対応について

ビジョン合同委員会

28-12-08(木) 於:機械振興会館

出席者:20名

主要審議事項:

- (1) バルブ産業ビジョンの総括
- (2) 次期中長期活動計画について

広報委員会

28-12-07(水) 於:機械振興会館

出席者:8名

主要審議事項:

- (1) 当委員会からのJV 賞推薦について
- (2) バルブフオト五七五コンテストについて
- (3) ホームページリニューアルについて
- (4) バルブ産業ビジョンの総括と次期活動計画案について
- (5) バルブの日新聞企画について

技術委員会

28-12-15(木) 於:機械振興会館

出席者:9名

主要審議事項:

- (1) バルブ産業ビジョン総括及び次期活動について
- (2) 来年度からの工業会組織変更について
- (3) 環境WGの活動進捗について
- (4) 平成29年度の若手社員研修会について

- (5) 技術研修会について
- (6) バルブ関連 国内・国際標準の動向について

◎環境WG

28-11-16(水) 於:機械振興会館

出席者:9名

主要審議事項:

- (1) 来年度以降のJVMA組織変更について
- (2) 環境関連情報10~11月分についての報告
- (3) 環境配慮バルブ登録制度説明会開催報告
- (4) 環境配慮バルブ登録制度ID&パスワード通知について
- (5) 環境配慮バルブ登録制度Webシステム制作進捗状況について

(6) 環境配慮バルブ登録制度広報周知について

(7) 中国版RoHSについて

29-01-12(木) 於:機械振興会館

出席者:8名

主要審議事項:

- (1) 環境関連情報12~1月分についての報告
- (2) 環境配慮バルブ登録制度について
- (3) 来年度の活動方針について

バルブ技報編集委員会

28-11-25(金) 於:機械振興会館

出席者:7名

主要審議事項:

- (1) 通巻第77号の発刊内容について
- (2) 通巻第78号の特集について

調節弁規格作成委員会

◎調節弁規格作成委員会WG

28-11-09(水) 於:機械振興会館

出席者:6名

28-12-13(火) 於:機械振興会館

出席者:5名

主要審議事項:

- (1) JIS B 2005-2-1 改正審議について
- (2) JIS B 2005-2-4 改正審議について
- (3) JIS B 2005-7 改正審議について

IEC委員会

28-11-09(水) 於:機械振興会館

出席者:6名

28-12-13(火) 於:機械振興会館

出席者:5名

主要審議事項:

- (1) 国際投票について
- (2) JWG17の活動(List of Properties)について

ISO/TC153 国内対策委員会

28-11-28(月) 於:機械振興会館

出席者:13名

主要審議事項:

- (1) 東京国際会議の内容報告
- (2) 国際投票について

工業プロセス用調節弁 JIS 原案作成委員会

28-12-20(火) 於:機械振興会館

出席者:14名

主要審議事項:

- (1) JIS B 2005-2-1 改正原案の審議
- (2) JIS B 2005-2-4 改正原案の審議
- (3) JIS B 2005-7 改正原案の審議

講習会・説明会

◎次世代育成研修

28-11-22(火) 於:日本ピラー工業(株) 三田工場

参加者:21名

◎安全保障貿易管理説明会

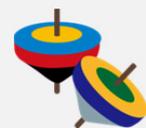
29-1-19(木) 於:機械振興会館

参加者:28名

◎高齢者雇用推進セミナー

29-1-20(金) 於:大阪新阪急ホテル

参加者:18名



■支部だより

東京支部

○役員会

28-11-15(火) 於:ホテルニュー長崎
出席者:17名(委任状含)

主要審議事項:

- (1) 東京支部総会収支報告について
- (2) 東京支部夏期研修会収支報告について
- (3) 東京支部秋期会員総集会収支報告について
- (4) 平成28年(1~8月)バルブの生産および輸出入実績について
- (5) 理事会審議概要報告について
- (6) (一社)日本鑄造協会主催:若手経営者全国大会について

○懇親会(近畿支部役員会との合同開催)

28-11-15(火) 於:料亭一力
出席者:17名

(東京支部役員9名、近畿支部役員6名、事務局2名)

○懇親ゴルフ大会(近畿支部役員会との合同開催)

28-11-16(水) 於:大村湾カントリー倶楽部 オールドコース
参加者:13名

(東京支部役員7名、近畿支部役員4名、事務局2名)

優勝:中野 恵司 氏 (河南バルブ工業株)

東海支部

○新年祝賀会

29-01-26(木) 於:岐阜グランドホテル
参加者:12名

彦根支部

○忘年会(滋賀バルブ協同組合との共催)

28-12-09(金) 於:やす井
参加者(彦根支部会員):12名

○新年会(滋賀バルブ協同組合との共催)

29-01-20(金) 於:伊勢幾
参加者(彦根支部会員):14名

○京都水道展視察研修(滋賀バルブ協同組合との共催)

28-11-10(木)
見学先:京都「みやこめっせ」京都市勧業館
参加者(彦根支部会員):14名

近畿支部

○新年互礼会

29-01-20(金) 於:大阪新阪急ホテル
参加者:51名

○役員会

28-11-15(火) 於:ホテルニュー長崎
出席者:12名(委任状含)

主要審議事項:

- (1) 近畿支部懇親ゴルフ大会概要報告について
- (2) 近畿支部秋季会員集会収支報告について
- (3) 平成28年(1~8月)バルブの生産および輸出入実績について

(4) 理事会審議概要報告について

(5) 近畿支部役員改選について

(6) その他

①東亜バルブ工業株社名変更について

②(一社)日本鑄造協会主催:若手経営者全国大会について

■会員の動向

社名変更

平成28年11月

新社名: (株)TOA (ティーオーイー)

(旧社名: 東亜バルブ工業株)

※東亜バルブ工業株の取締役及び技術陣が中心となり、
新会社を設立

〒544-0004 大阪市生野区巽北 4-15-6

TEL:06-6753-2771

代表者変更 (敬称略)

(株)ピフライト

平成28年10月 代表取締役社長 松林 良蔵

移 転

(株)KVK 富加本部

(本社機能を岐阜市から富加工場のある岐阜県加茂郡富加町に移転)

移転先 (平成28年11月より)

〒501-3304 岐阜県加茂郡富加町高畑字稻荷 641

(総務部)TEL:0574-55-0005

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます!



平成29年1月27日発行 ■■■ JVMA 通信No.23 ■■■

(発行元) 一般社団法人 日本バルブ工業会

TEL: 03-3434-1811 FAX: 03-3436-4335

E-mail: info@j-valve.or.jp

